

半田山

2019. 12. 6

皆さんは、「はんだごて」をご存じでしょうか。普段は使わないかもしれないが、中学校の技術の時間に使ったことがあると思う。はんだとは、半田付けに利用される鉛とスズを主成分とした合金である。金属同士を接合したり、電子回路で電子部品を基板に固定するために使われたりする。

では、「はんだ」の語源はご存じでしょうか。私は、それを今から12年前に知った。中学校で技術を担当することになり、いろいろと勉強しているときに知ることとなった。地名由来か人名由来かははっきりしない。地名由来とする説は、江戸幕府の銀山であった「半田山」（福島県桑折町）から来ているというものである。12年前にそのことを知り、「へ～」と思ったことを覚えている。

半田山は昔から知っている。銀山であったことも知っている。半田山自然公園に行ったこともある。そこには半田沼がある。福島第一中学校時代は、自然教室として、ここでハイキングとバーベキューをした覚えがある。懐かしい場所でもある。

今は、毎朝、梁川の高台から半田山を眺めている。私は、福島市の西の方で生まれ育ったため、いつも吾妻山を見ていた。山の方を見ると、その日の天気がわかったり、季節の移り変わりを感じることができる。この時期は、吾妻山を見ていれば、福島盆地に初雪の便りがいつ頃やってくるのか、だいたいわかる。まずは、吾妻連峰の天辺部分に初冠雪、次に吾妻小富士や一切経山全体を包む雪、その次が高湯温泉くらいまで白くなる。そして次が麓まで白くなる。今は、この麓まで白くなる段階まで来ている。ということは、平地に雪が舞うのは、もうまもなくということになる。

4月から半田山をずっと見ている。だが、梁川の地に雪が舞うのがいつなのか、さっぱりわからない。すでに半田山は何度か白く染まっている。こういうことは、一冬いや何度も冬を越すことで得られる経験則なのだろうと思う。きっと梁川の方は、半田山を見ているとわかるのだろうと思う。高台からは、吾妻山と半田山が共に視界に入る。最近では、両方を見比べている。吾妻山の方は、日に日に初雪へと向かっているが、半田山の方はわからない。福島から見る吾妻小富士と梁川から見る吾妻小富士とはだいぶ違いがある。梁川から見るそれは格好がわるい。その分、吾妻小富士の奥にある吾妻連峰までよく見える。

わずか8ヶ月あまりで半田山が理解できるわけがない。梁川のことと同様である。しかし、せっかく縁あって毎朝、梁川の高台に立っているわけだから、少しでもわかるようになりたいと思う。それは、気候、風土、歴史、文化どれも一緒である。

必死で取り組んだ中学校の技術担当教員時代、半田ごてを使ってインターホンを作ったことがあった。できあがったと思ったら、音が鳴らないことがあった。製作した生徒以上に私が焦った。私の指導不足である。どこかがつながっていない。原因は半田ごてを使った半田付けにあった。熱々の半田ごてでジャージに穴を開けてしまう生徒もいた。私にとっては、いろいろと大変だった思い出に残る「半田付け」である。半田山を見ると、ふと懐かしさが蘇る。

福島にも梁川にも初雪の便りが聞かれるのもそう遠くはないだろう。日に日に季節は冬へと向かっている。